議　長	会議を再開します。　（午後１時００分）
〃	これより、中平議員の一般質問を行います。２番中平議員。
２番 中平議員	皆さん、お疲れさまです。２番中平でございます。午後一番でございますので、皆さんが眠くならないよう頑張りたいと思います。さて、新型コロナの感染法上の分類が、第２類から第５類に変更になったことによって、かつての行事が復活する動きが出てきました。早速６月２５日は自治会バレーが再開されます。しかしながら、他の行事においてコロナ禍前と同じことが簡単にできそうにありません。長く休んでいたため、パワーが必要になります。いっぺんに元通りにはなりませんが、徐々にでも以前のようなにぎわいを取り戻したいものです。ちなみに来月の行事としては、７月１６日にアクアス川本町の日、７月２９日は「ええなぁまつりかわもと」が開催されます。紹介しておきます。さて、町内の話題になりますが、先週、川本中学校の野球部、女子バレー部の県大会出場が決まりました。少年野球では県で３位になり、愛媛での大会に臨みます。ジュニアバレーは石見予選を２位通過し、２年連続の県大会出場です。１位通過できなかった悔しさを県体験にぶつけて、優勝を目指して頑張って欲しいと応援しております。その他、中央高校のカヌー部は４名が世界大会へ派遣されます。陸上部は３名が中国大会に出場します。男子硬式野球部はシード校として、甲子園を目指して県大会に臨みます。女子硬式野球部は、全国大会での活躍が期待されます。また、吹奏楽部と他の部活動も頑張っております。子どもたちの活躍に元気をもらっていますので、町民を挙げてしっかり応援しましょう。少し前置きが長くなりましたが、通告書に基づき２項目の質問をいたします。どうぞよろしくお願いします。 １項目めは、「ふるさと納税について問う」であります。ふるさと納税とは、生まれた故郷や応援したい自治体に寄附ができる制度であり、手続きをすると、寄附金のうち２，０００円を超える部分については、所得税の還付、住民税の控除が受けられるとともに、自身で寄附金の使い道を選定でき、地域の名産品などのお礼の品物をいただける魅力的な仕組みとなっており、全国的には令和３年度の寄附額は８千億円を超え、前年を１千億円以上上回るなど、右肩上がりに増えています。しかしながら、川本町においては、令和２年度２，１１５万円、令和３年度２，９０４万８千円と伸びましたが、令和４年度は２，０６５万１千円と減少しております。このような現状をどうとらえているか、税収の増加に向けてどのような対策を考えているかを問います。２項目めは、「女子野球タウンへの登録について問う」であります。このことについては、令和３年３月議会で片岡議員が、島根中央高校の生徒数の減少を心配し、女子野球が認知されることで生徒募集の一助になればとの熱い思いで提案をされました。全日本女子野球連盟が女子野球タウン認定

２番
中平議員

事業を令和２年９月に開始しております。女子野球を活用して地域の活性化を目指す自治体を女子野球タウンとして認定し、連盟とともにその自治体を盛り上げていくことを目的にしております。女子野球タウンへの登録に向けて、その後の進展を問います。また、今後の女子野球との町の関わり方や環境の整備について対応を問います。以上、２項目の質問をいたしますので、よろしくお願いします。

議　長

それでは、中平議員の質問のうち１項目めの「ふるさと納税について問う」に対する答弁をお願いします。番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

それでは、中平議員の１項目め「ふるさと納税について問う」にお答えいたします。この制度は、平成２０年４月の改正により開始された、ふるさとを出身地という意味と、出身地ではないが貢献・支援したいと思う地域と広くとらえることで、納税者が希望する自治体に寄附できる制度です。本町の現状でございますが、実施主体である町から有限会社 Will さんいんに委託して業務を行っております。議員ご指摘のとおり、令和３年度の寄附金額の実績は、前年度より７８９万８千円の増額で、前年度対比１３．７％の増となっております。増額の大きな要因といたしましては、令和２年度に発生した水害に対する、本町出身者に限らない被災地支援の意味合いでふるさと納税を行う人が増えたことによるものと把握しております。本町に限らず、全国的にも被災地をふるさと納税で支援する動きは続いており、出身地に限らず、応援・貢献したい地域に寄附できる制度設計によるものと考えております。一方で、昨年度のように減額する要因といたしましては、自治体間競争が激化する中、多様化する納税者意識に対し、効果的な取り組みができなかったことが挙げられます。このような状況を避けるため、昨年度は返礼品事業者の方を対象に、返礼品の魅力向上を目的とした研修会を開催したところです。今後もこうした取り組みを継続し、より本町の認知度を高めて寄附額の増加につなげるため、地場産品のブランド化や魅力的な返礼品開拓提供を同時に進めながら､ふるさと納税ＰＲサイトによる活動を行ってまいります。具体的には、今月から窓口となるポータルサイトを拡充し、ふるさとチョイス、楽天ふるさと納税に加え、ＡＮＡのふるさと納税での寄附を受け付けを開始しており、よりよいサイト運営に努めてまいります。また、先にご質問いただいた企業版ふるさと納税につきましては、寄附の受け入れに必要となる地域再生計画の認定を受けるため、現在、鋭意進めております内閣府との協議が整い次第、寄附の募集を開始してまいります。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

過去、上がった年と減った年の原因は、災害の関係で増えたのと返礼品のところでちょっと苦戦したというふうに回答がございました。参考までに申

２番
中平議員

しますと、昨年度の実績で、県内では浜田市が１２億円でトップです。お隣の邑南町が１億８，８６０万、美郷町が４，４７９万、ちょっと離れますが飯南町が１億３，９８１万です。やっぱりそういう面では、返戻品のところでもう少し力を入れるべきではないかと思います。ちょっとこれ後になりますが、今までにいただいたふるさと納税でですね、これが全体のどのぐらいが使えて、どのように使われたのでしょうか。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

すいません、ちょっと延べでの実際に使った活用した金額ってのちょっと資料を持ち合わせておりませんけれども、直近のもので言いますと、例えば弓市のですね、魅力向上推進事業といったものに活用したり、学校の関係で、中学校の遠征費の補助金に使ったとかですね、あと細かいところで言いますと、大体目的がございますけれども、寄附の目的としていろんな項目が８項目ぐらいございまして、やっぱり元気な子どもが育つ環境というところに一番の寄附が集まっております。こういったものを一応踏まえまして、事業の方に活用していくという、優先的にということもあると思いますけども活用してるような状況にあると思います。以上です。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

先ほどちょっと他に劣っていると言われた、返戻品についてですけど、今後どのようなものを考えておられますか。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

やはりですね、返戻品につきましては、今ありますエゴマですとかお米、お肉、これがやっぱり一番出るところの返礼品でございます。やはりこういったところをですね、ブランド化していくといいますか、さらに魅力あるものにしていくっていう取り組みはしていく必要があるかなと思っております。これはふるさと納税の所管課というところではなくてですね、産業振興課、農林業振興と商工業の方も担当しておりますので、これは別の観点で、６次産業化ですとかそういったところも進めていく必要もあるのかなというふうに考えております。また一方でですね、いろんな返礼品をということで、今体験型のものが割とブームといいますか、出ておりまして、本町でもですね、レールバイクに今度ふるさと祭りがございますけども、こちらでレールバイクも同時に開催いたします。こちらへ寄附をすればですね、レールバイクに乗れるというようなお返しで、返礼品としてレールバイクに乗れるというような、鉄道アクティビティへの参加権といいますか、そういったものにしております。こういったユニークなですね返戻品がありますと、なかなか

番外名原産業振興課長　ユニークな自治体が取り組んでるなというところで、それが呼び水となってふるさと納税が集まるということも期待しておりますので、いろんな方面からですね、返戻品については検討してまいりたいというふうに考えております。以上です。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　参考までに返戻品の数すべてじゃありませんが、川本町は１２３件登録、海士町が３１８件と大幅に差があります。それでですね、いろいろ考えておられると思いますけども、先ほどのような返礼品の種類ですね、特産品、これを増やすことはもう当然必要なことではないかと考えております。また先ほど言われた体験型のようなところで、よその例を申しますと、邑南町あたりは空き家の管理サービス、見守り訪問サービス、安田邸宿泊プラン、神楽観賞つきなんていうのが４５万円とか、こういった変わったものをやっておられまして、飯南町では町内の商店で使えるＰａｙＰａｙの商品券というようなものが、ちょっと目につきます。海士町なんかでは、釣り客用の渡船券ですね。それから連携ですね、特産品の連携の例で言いますと、高知県が１１市町村で、１月から１１月まで、毎月１１市町から１ヶ月ごとに一品定期的に届くものというようなものもございます。県内のを見てみますと、海士町と美郷町では、猪肉とイワガキ、あかもく蕎麦とイカのから揚げセットみたいなものもありますが、県内を問わずコラボは考えておられませんか。

議　長　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　コラボにつきましては、いろんな情報もこちらに入ってきております。なかなかその調整も難しいっていう話も聞いておりますので、それは委託業者でございます Will さんいんさんとですね、その辺はいろいろと協議しながらですね、より良い返礼品ができるような取り組みをしてまいりたいというふうに考えております。以上です。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　説明にあったところで、特産品だけではなくですね、参加型・体験型、或いは自治体連携というのもあるようです。先ほどのコラボについては、私は坂町と何かできないかなというふうにずっと考えておりますが、今後研究してみていただきたいと思います。参加型・体験型のよその例をちょっと引っ張り出しますと、三重県内の１３市町が連携したバスツアー企画というようなものがございまして、これは抽選で２コースに各１３組２６人、これが利用されたというのが載っておりました。参加型・体験型では、今レールバイクという紹介がありましたが、特に他に考えておられることはありませんか。

議　長　　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　　今考えている、具体的にはまだ形にはなってございませんけれども、やはり観光資源を活用した、本町ならではのですね観光資源を活用した返礼品は、意義があるのではないかなというふうに考えております。本町に実際来ていただいてですね、いろんな体験をしていただいて、やっぱり本町のファンになっていただくということで、さらに効果的な取り組みができるのではないかと思っております。例えばですね、天空の朝ご飯とか、昨年開催しておりますけれども、ちょっと春はちょっと天候の関係でできませんでしたけれども、こういったアクティビティーですとか、いろんなことをですね、観光協会等、いろんな関係団体と一緒になって考えていきたいと考えております。以上です。

議　長　　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　　いろんなところで相談をして話を聞いたり、意見を出したりしております、川本魅了化の会議というものがございまして、私参加しておりますが、そこでは川本駅の貸し切りというような話も出たりしておりました。貸し切りたい方が企画を考えて、それをお手伝いするという形になると思います。以前結婚式の前撮りがありまして、ちょっと話題になったことがあります。こういうことにでも使うというのはあるかなと。地元に映像クリエーター木下さんという方がおられますので、そういう方の協力を、使うということもあると思います。うちの町での参加型・体験型のことでちょっと幾つか提案をさせていただきたいと思います。まず１点目は、笹遊里でのキャンプ券。これは何も用意せずに来てもらう。テントのほかキャンプ用品一式を準備します。そしてバーベキューの提供、バンガローの利用、弥山荘からの送迎で温泉に入れるというようなパック、これが１つ提案です。２つ目の提案は神楽鑑賞の貸切。要は神楽団を貸し切って使ってもらう。それから、現在川本町に東京事変のドラマーであります、刃田綴色さんが地元で音楽のまちを盛り上げたいということで、実家の納屋を改装してドラムのレッスンをされています。今全国から２０数名来られるそうですが、最近よくメディアにも登場しておりますが、これのレッスンチケットのようなものとか、それからご自分が企画して、県内を巡ったり邑智郡内を巡るツアーもやっておられます。これもかなり遠方から応募があってですね、県外から。直近であった方も静岡の方から来ておられましたけども。やっぱり東京事変のドラマーというネームバリューでですね、そういう方が応募されたということがございます。そういうところはどういうんですか、コラボといいますか、協力していただくことも可能ではないかなとあります。なかなか簡単に返礼品の企画に入れられるかどうかということはありますけども、これで納税を増やす、直接納税を増やすということではなくてですね、こういった変わった企画を載せることに

２番
中平議員

よって、川本のサイトですね、このサイトを見てもらうということが一番重要じゃないかと思います。他の自治体の議員さんにもお話を聞いてまいりましたけど、とにかくサイトを見てもらうことが一番大事だと。そのためにはサイトの中身も充実しないといけないと。もちろんそういうことにはなります。このことについてはどう思われますか。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

今いろいろご提案いただきました。参考にさせていただいてですね、いろいろまた各方面投げかけていきたいなと思っております。先ほど私言いましたようにユニークな返礼品を載せることによって、今議員も言われたようにですね、本町の認知度を高めていくってことも一つにあると思います。いろんな工夫しながらですね、川本町のですね認知度がさらに広めるような取り組みを行っていきたいというふうに考えております。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

次にですね、企業版ふるさと納税についてお伺いしたと思います。企業版ふるさと納税とは、地方創生の取り組みに対する企業の寄附であり、仮に１，０００万円寄附をすると、最大９００万円の法人関係税が軽減されます。これに対する認識と今後の対応をお伺いします。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

企業版ふるさと納税につきましては、前回の中平議員の一般質問をいただきまして、それからそのうちも検討の方を進めてまいりました。ちょっとまだ実際にですね寄附を受け入れるためには、先ほど答弁の方で申しましたように、地域再生計画、これを策定してですね内閣府に認定していく必要がございます。今こちらの作業の方を進めておりまして、早ければですね８月ぐらいに、もし認定いただけるんではないかということで、今調整の方行っているところでございます。これを認定をいただいてからですね、また募集について、まず次の段階での取り組みになると思っておりますけれども、できるだけ早めにですね認定いただいて、次の取り組みを行っていただきまして、寄附額、やはりなかなか一般のふるさと納税ですと返礼品の獲得競争、厳しいものがございます。やっぱり違う段階で企業間、企業の方にですね、また本町の取り組みをしていただいて、本町の地方創生のですね取り組みに対して、ご理解いただいて寄附をいただくというような取り組み、これにまた注力していきたいというふうに考えております。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

地方再生計画の認定をできるだけ早く受けていただきたいと思います。これもちょっと調べてみましたけど、現在４６道府県で１，５４３市町村が認定を受けておるようで、全国で１，７１８市町村あるようですが、ちょっと遅い方かなと思われます。それでですね、先日、これ受けてからでないとどうしようもないんですが、新聞を見ますと、島根中央信用金庫さんがふるさと納税で邑南町に１００万円を寄付したという記事がございました。うちにはもらえんのかなと正直その時新聞見た時には､感じたところでございます。これは町の地区別戦略発展事業としての､公民館単位で住民組織が取り組む、移動販売車の運行とか地域の山城を生かした活性化などを支援する取り組みに共感したとありました。同じようなことは、多分我が町でもやっておると思います。他にですね、海士町をやっぱり出すようですが先進地ですので、海士町ではふるさと納税を基金としました未来共創基金というのを創立されておりまして、ふるさとチョイスアワード２０２１年、２０２１の未来に繋がるまちづくり部門で大賞を受賞されております。こういった変わったいろいろな取り組みもやっておられるところもございます。浜田市では、浜田暮らし住まい支援プロジェクト、これは目標が１，６４４万５千円になっておりますが、空き家の家財道具の処分と、改修費用に充てるとあります。もう１点ですね、派遣型ふるさと納税についてお伺いしたいと思います。派遣型ふるさと納税というのが最近新聞賑わかせておりますが、企業版ふるさと納税の人材派遣型というふうになっております。ですから全く同じで、人材派遣の経費の最大９割が税額控除となり、受け入れた自治体は財政負担なく人材確保できるメリットがあるということで、そんなに大変な人数でもないですがどんどん増えていくと思います。今は３６都道府県８３自治体で計１０２人が派遣されておるようですが、これに対する認識と今後の対応をお伺いします。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

今おっしゃいました人材派遣型の企業版ふるさと納税でございます。確か４月にですね新聞報道でもなされてまして、議員ご指摘のとおり８３自治体で１００数名の受け入れがあるということで、だんだん拡大の方が進んでるというようなことでございました。ちょっと私､人事担当部局ではないので、あまりその人材の確保については申し上げる立場にありませんけれども、やはりまず私としては企業版ふるさと納税の方を、内閣府にですね計画認定していただいて、粛々と作業を進めてまいりたいなというふうに考えております。実際に町のですね、町にとってどういう外部人材が必要かというところがまた論点になろうかと思いますので、それはちょっとまた、私からは申し上げませんがよろしくお願いします。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

人材派遣型のふるさと納税については、海士町の大江町長、大手建設会社からの派遣を検討しているというふうに新聞に書いてございました。やっぱり町で必要な人材というところでの話だと思います。ふるさと納税については最後になりますが、このふるさと納税というのは、やはり今後も増えると思います。そして、はっきり言って、自治体間の取り合いになると思われます。やはりまちの魅力を発信して、課題解決につなげるためには、もう少し力を入れて取り組む必要があるんじゃないでしょうか。個人的な意見ではございますが、先ほど説明があった中の一つである使い道ですね、この中に島根中央高校への支援とメニューにありますが、ちょっと漠然としているなという感があります。もう、はっきり男子硬式野球部、女子硬式野球部、カヌー部、吹奏楽部、陸上部等への支援として寄附を募ってみてはどうでしょうか。ふるさと納税全体のことに対して、町長の見解を伺いたいと思います。

議　長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

ふるさと納税全体についての私の考えをというお尋ねでありました。私自身はですね、ふるさと納税制度っていうのはですね、この制度が求める機能は、私自身は本来は地方交付税制度の中で展開すべきものと、こう大きく考えております。地方交付税制度自体がですね、団体間の財政上の不均衡をですね埋め合わせるために国民から徴収した、所得税、酒税、消費税をですね一定の率で本来必要な財政規模に対して配分するということで、このふるさと納税制度自体がねらったことはですね、私自身は地方交付税制度の中で検討して税制措置をすべきという考えを持っております。このことは制度創設にですね、総務省のですね、霞が関のかなりトップレベルの官僚までもそのようにですね、やりとりしながら最後政治決定で導入されたというふうに私自身は承知しております。出身者であればまだしもですね、出身者ではない人が応援したいところに寄附をすると、ありがたいことではありますが、これはですね現実的にはいろんな自治体で裁判例にもなったようにですね、都市部の富裕層を結果として優遇する措置になっており、また都市部のですね、自治体から本来の税源が失われるようなことになっている。何よりもですね返礼品競争というですね、この自治体のコントロールがきかないところで、そういうものが発生していると。やはり私自身はこの制度自体はですね、非常にいびつな制度であるという認識でおります。一方でこの中で今度設けますですね、企業版ふるさと納税、これは返礼品制度がくっついておりません。企業活動というのはですね、いろんな事業活動の中でいろんな税制上のですね優遇措置をしっかり意識しながらやられるものでありますし、企業はですねそういう自治体ですね地域創生そういう活動をですね近年の企業活動の中でどんどん力を入れておりますので、企業版ふるさと納税という仕組みは、非常にですね、そういう企業の通常の事業活動等、自治体とですねコラボという意味合いで、非常に望ましい制度ということで、残念ながら私どもの町

番外
野坂町長

ではですねこの立ち上げもちょっと後塵を拝してしまいましたが、今鋭意努力をしておりますので、これをしっかりと運用していきたいと思っております。その上で議員もいろいろご提案ありましたことはですね、いろんな企画提案をするということは、この納税制度自体に乗っかるということがメインではなくて、そういうですね、町の資源なりそういうものを活かして企画していくことが、産業振興課長も申しましたが、そのこと自体がいわゆる産業振興、そして税源に繋がりますので私自身はですね、この町のですね、いわゆる将来持続可能である町であるために、今現在のですね予算規模、今年度でいうと自主財源規模３億弱であり、その自主財源を構成する、まずは住民税、固定資産税ですね、主たる税源、それをしっかり涵養していく。従って、定住を呼び込み観光を呼び込み、それから外からのそういう付随して付加価値を呼び込む、そういう活動に、まずはそれが町が取り組む王道であると。それをやった暁に新しい商品開発ができたらそれをしっかり、議員も情報発信が大事というふうにおっしゃっていただきましたので、その結果としてそのことが最終的にはその返礼品の魅力アップにも繋がって、結果として、それがより呼び込めればと。こういうふうなスタンスで私自身はおります。あとですね、私どもの町が返戻品競争に巻き込まれてない裏返しの関係で、残念ながら、あのですね、被災後のですね額は減りましたが、逆にそういう被災地支援ですね、そういう都市部の富裕層のですね、返戻品目当てじゃなくて真に町を応援してくださるのがですね被災直後にぐっと上がってますので、そういう応援してくださる人の顔の見える関係を大切にしていくと、こういうスタンスが必要であると思います。そういったことを意識しながら、議員ご提案ありましたようにですね、産業振興に資する取り組みをしっかり開発して、それを情報発信することで、その先にはですね、魅力ある返礼品も開発されて、他の自治体とのですねバランスも、そういう意味で、そういう意味でそこに追いつくように、そういうことをですね力を入れていきたいと思います。それから最後に述べられた派遣型についてはですね、これも非常に企業活動なりに頑張ってまして、同じように損金の優遇措置が講じられてます。ただですね派遣型の人を招き入れることにつきましてはこれは、例えば地域おこし協力隊であったり集落支援であったりですね、他の人材を招き入れる今、総務省の方はＩＴ系の人を送り込みという制度を設けて、うまく活用した自治体もありますけど、これについてはどういう人材を私どもがイメージするかとですね、あとはやはり外部人材に、町がイメージした通りに振舞ってもらうためには、そういうマネジメントの力が必要ですので、そういうことをしっかり意識して、そういうマネジメント方法もですねしっかりしながら、招き入れた人にパフォーマンスを町として望ましい形で振る舞っていただけるように、そういう力をまず私の執行部がですね、身につけるということがあって初めて成り立つものであると考えておりますので、まずはそういう力を身につけた上で、他自治体の事例と、あと町の思ってる資源をですねうまく組み合わせながら、この制度をですね有効活用していきたい

番外
野坂町長

と、このように考えております。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

町長が先ほどおっしゃられたことは、島根県で言いますと松江市がその問題に直面しておりまして、入ってくるお金より出ていくお金が多いという自治体が、確かにあることは承知しております。ただ川本町については、まだまだよそから来ても大丈夫なんかなあという気もしておりますし、やっぱり今の企業版ふるさと納税あたりでちょっと頑張ってもらえば、ある程度の寄附額が増えるんじゃないかと思いますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思い、この質問を終わります。

議　長

以上で、１項目めの「ふるさと納税について問う」の質問を終了します。

々

次に、２項目めの「女子野球タウンへの登録について問う」に対する答弁をお願いします。番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

中平議員ご質問の２項目め「女子野球タウンへの登録について問う」にお答えします。はじめに、令和３年第１回定例会において一般質問をお受けした、女子野球タウンの登録をすべきではないかとのご提案に対する、その後の進展についてです。女子野球タウンとは、一般社団法人全日本女子野球連盟が公募・認定するもので、市区町村と当財団が情報交換を行い、女子野球の普及振興を行うとともに、女子野球を通じて、シティプロモーションやまちづくりを推進する事業です。全般の一般質問では、島根中央高校のＰＲ、女子野球大会の開催、観光振興・特産品開発と、「女子野球タウン」とのコラボにより、女子野球の普及、地域の発展を図ることが見込まれるなどのご提案をいただき、町として登録について検討するほど、答弁いたしております。その後、当財団や既に認定を受け、観光振興・情報発信・人材育成などに取り組んでいる自治体と情報交換を継続しておりますが、本町では認定に際しては、女子硬式野球部の活動支援に加えて、シティプロモーションや女性の視点に立った施設環境整備・人材の循環・交流人口の拡大など、本町の課題解決に繋がる取り組みが必要であるとの認識に立ち、現在は本町だからこそできる取り組みの検討を深めているところです。こうした方向づけが固まる段階となりましたら、議員の皆様にご提案し、ご意見をいただいた上で、登録に向かってまいりたいと考えております。次に、今後の女子野球との関わりについてです。創部５年目を迎えた女子硬式野球部は、この春の全国選抜大会では、昨年夏の選手権に続いてベスト１６に入るなど、着実に全国レベルの力をつけてきており、今後の活躍を大いに期待しているところです。また、県内外からの入学生の増加やまちの活性化にも貢献しており、引き続き活動を支援するとともに、卒業生の中には選択肢として将来本町へ帰って

番外伊藤まちづくり推進課長　きたいという思いを寄せてくれている生徒もおられることから、高校３年間の野球を通じた関わりにとどまらず、関係人口やＵ・Ｉターン、さらには経済効果につなげるなど、まち全体へ波及する新たな関わり方を築いていきたいと考えております。最後に、環境整備についてです。現在、女子硬式野球は練習や練習試合で、また、この春からは、中四国女子野球ルビーリーグでも川本町民球場を使用しております。本野球場は建設から大規模な改修を経ないまま経年し、ラバーフェンスが設置されていないなど、大きな大会や合宿などを誘致、開催するには困難な環境にあり、また女子野球の視点からは、更衣室やダッグアウト、救護室の整備、改修も必要になってまいります。とりわけ、女子野球タウンの認定を受けるためには、相応な施設環境の整備が不可欠であると認識しております。この度、２０３０年国民スポーツ大会の軟式野球会場に決定されたことも踏まえ、計画的に環境を充実してまいりたいと考えております。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　丁寧な説明がありました。中央高校野球部はご存知のとおり２０１９年４月に１期生１２人でスタートしたわけですが、２２年度が４１人となり、男子部員の３３人を上回り、全校でも男子９２人、女子１２３人となり、女子生徒の３分の１が野球部員という状況と聞いておりますが、今年度の状況はどうでしょうか。

議　長　番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長　今年度も、ちょっとはっきりした細かい人数わかりませんが１５人程度が入部いただき、現在４９名で活動していると、そういった状況でございます。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　中国地方では、広島の三次、廿日市の両市がすでに認定されておりまして、三次の方では昨年の日本代表候補の強化合宿を誘致された。またルビーリーグで使われる球場のトイレが、男女共用のくみ取りというようなものがあったものを、クラウドファンディングで２２０万募って今改修中というふうに聞いておりまして、やはり認定されておるとこでも、まだまだいろんな改修がされておるんだなというふうには感じております。やっぱり先ほど説明がありましたけれども、球場のですね改修ですね、これは先ほどスポレク（正：国（こく）スポ）に合わせて改修する方向性はあるというふうにおっしゃいましたので、いずれは改修はするんでしょうけど、２０３０年ですのでね、かなり先です。もう私、関係者からの話を聞きますと、せめて内野のラバーフェンスぐらいは早急にやらないと危ないというふうに聞いております。ですから、

２番
中平議員

今の予定が立ててどうせ改修しないといけないのであれば、前倒しでもできることがあれば、ぜひ取りかかっていただきたいなと思います。やっぱり川本球場、トイレは良くなりました。ですが今、先日もルビーリーグ、川本球場に行きましたけども、Ａ、Ｂ、２チーム出て、なかなか強豪とやっても勝利をするという状態。また今年は聞いておりませんが、例年どおりなら中学生の女子硬式野球の中国地区女子野球川本大会というのも開催されております。やはり遠くからうちの球場で野球をしにきておる子どもたちにとっては、安全で使いやすい球場でないとやっぱりいけないと思います。どこまでの改修が２０３０年にされるかは伺っておりませんが、それこそ電光掲示板も全部立派にして、すべてのことが新しくなるようなことになるかどうかはその近づいてみないとわかりませんが、やはり最低限の改修ですね、今多分関係者から話を聞かれると、いろいろ出てくると思うんですよ。ここだけは早くやって欲しいというようなことが出てくると思うんですよ。そういうところをやっぱり優先的に取りかかるような方向性を持ってやってもらいたいと思います。それと、今の女子野球部ですけど、説明にもありましたように、練習試合するのに県外へ行くしかないというふうにありました。春の選抜に出場しましたけれども、関東で９泊して、宿泊費は全部父兄の負担だったというふうに聞いておりますが、遠征費についてはどうなってますか。

議　長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

中央高校の女子野球部の遠征費につきましては、学校が指定する大会につきましては、学校の方で措置されてるものもあるかと思います。ただですね、やはりそれには各部の上限がございますので、基本的には、それ以外は保護者が負担すると、そういった形になってるかと思います。

議　長

再質問ありますか。２番中平議員。

２番
中平議員

ある程度の父兄の負担はやむを得ないと思いますが、余りに高くなりますと今後の募集に対し、ちょっと影響があるかなと心配するところではあります。それとですね、最近力をつけてますので、県外へ出るよりは来てもらうという方が増えれば、その辺は若干負担が減るんじゃないかというふうに考えられます。あとですね、全国大会へ出るわけですが、これの負担はどうなりますか。

議　長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長

こちらの全国大会も同じように、学校の方と保護者の方で負担をされるということが基本になると思います。もちろん後援会、中央高校の後援会が寄附の方を集めておりますが、主なものは学校の方と保護者会ということで聞

番外伊藤まち推進課長　いております。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　ある程度賄えるということで安心はしましたが、私も後援会へ入ってます。一口１，０００円ということで徴収に来られます。女子野球というのは、今の硬式野球部は必ず全国大会へ出ますのでね、やっぱりこの全国大会に出るということの後援会の寄附というよりは、大会へ出る分の寄附のことをもう少し考えられたらいいんじゃないかと思いますけど。どうですか、１項目めで触れましたふるさと納税も一つの手だと思いますけども、どうお考えでしょうか。

議　長　番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長　はじめの野球部の後援会の会費のことだと思うんです、これにつきましてはちょっとこの場でですね、ちょっと発言は難しいかなと思っています。ただふるさと納税なんかにつきましてはですね、確かに活用していく可能性もあるかなと思います。それから、球場の今の状況を詳しく説明していただきました。言われるようにフェンス、特にラバーフェンスに関しては早いうちに、どう言いますか改修が進めばですね、女子野球の大会も言われたようにルビーリーグであったり練習試合も数多く、川本の方でやるということも考えられると思います。それによって遠征費が減るんじゃないかというご提案だったと思いますので、改修の方につきましては、２０３０年までのところで言われるように、なるべく早い段階かつ安全な、そういったラバーフェンスなどについては、できるものであればですね、財政的なことも踏まえながら、取りかかっていければいいかなと思います。

議　長　再質問ありますか。２番中平議員。

２番中平議員　あと遠征にやっぱり来てもらって泊りがけというようなことも考えられますが、やっぱり川本で言ったら、大勢泊まれるのは笹遊里ぐらいしかございませんので、そういうことも考慮に入れて、今後整備する必要があるんじゃないかと思います。それとですね、川本球場に私も応援に行きますが、選手の名前も分からないというような状況が多くの観覧者から聞かれます。私は後援会へ入ってますので、会報を見ると名前、出身中学、出身クラブぐらい書いてありますが、せめてあそこに背番号でも書いてあるとこれは誰だというのがわかっていいのかなと思いますが、これは男子についても同じことが言えると思います。もし可能でしたら、後援会へ入ってない方にでもお渡しできるようなリーフレットみたいなものがあると、その後の応援の力にの入れようが変わってくるんじゃないかというような気もしております。それと

２番
中平議員

遠征費の補助については、昨年ですけど、住民グループの「だけぇかわもと」というのがありますが、トウモロコシを販売されて、部員と一緒に販売されて収益金の７万円を寄附されたという、温かい話もありました。また部員さんも一緒に販売されておりましたので来場者といろいろ交流もあったということです。もう一つは、江風寮とシーピースの食事のことについてお伺いしますが、私は今度の入学生の野球部員のまち親をやっております。先月、家を訪ねて来られて、友達と一緒に訪ねて来られましたけども、江風寮の食事とシーピースの食事がちょっと差があるようなことを聞いたんですが、そのことはご存知でしょうか。支援のところで。ちょっとお聞きしたかった。
（「ちょっとずれてきてるような気がしますので、軌道修正をお願いいたします。」議長の声）
　それはちょっとやめときましょうか。先ほど、今のボランティアで支援をするという話もございましたけども、最後のことになりますが、先日松江のほうでちょっと聞いた話なんですけども、中央高校の男子野球部ＯＢの話ですが、弓市町内を野球部におる時ですけど、弓市町内を歩いておった時に、知らないおばさんから声かけられて、「あんた中央高校の野球部」と言われて、「はい」って答えたら、これ何か買って食べなさいと１，０００円渡されたそうです。今、その子の話がすべてがそうじゃないかもしれませんが、やっぱりその時うれしかったというふうに、いまだに言っておるそうです。川本の町の皆さんが、高校の野球部は男も女もですけどね、応援するという気持ちが伝わったんじゃないかと思っております。最後にこの問題についての町長の所見を伺って、質問を終わりたいと思います。

議　長

　番外野坂町長。

番外
野坂町長

　女子野球タウンの登録に向けてはですね、これ私本町の成り立ちにも関わる、そういう動きだと思っておりますので、ぜひ前向きに向かいたいと思っております。今いろいろとですね、タイミングなり同じ登録に向かうのであればですね、ストーリーづけして町とですね、成り立ちと魅力も含めて発信をしたいと思います。せっかくのお尋ねですので、例えば、現、今の立石校長は、中央高校始まって以来の女性校長であるといったようなこと。或いはですね、これはですね、本町のですね、女子教育のですね、この創設にすべてをささげられた三上アイさんですね、ご本人さんが先進の専門学校で今の東京家政大学の前身を出られてそのあと、今の東京芸術大学の前身でも納められて、当時県下で初めて女子教育をですね、当時は当時の女子教育の目指すところであったので、裁縫と茶道を中心に心得も示して、ここで皆さん、ＯＢの方たくさんいらっしゃいます川本女学館です。当時邑智裁縫女学院ですか設立されて、今の、それが智翠館高校の前身でありますけども、この方がそういう学校を創設されてですね、そこにもう県内から女子生徒が集まったと、こういう歴史がある中でそこへですね、時空を越えて、今のシーピー

番外
野坂町長

スがあるという創意ですね。今、平成２年の４月に、その記念碑が今も残ってますけども、その三上アイさんがなされた時代と今の女性が向かう方向は違いますし、午前中の香取議員の女性活躍の話もありますけども、まさに今ですね、川本の町が交流のまちとして成り立ってきて、そういう女子教育の先進地でもあったというですね、そういう聖地に今シーピースが建って、そこで女性たちが活躍してくれてその動き私たちが応援するとですね、そういうことをぜひストーリーづけて、一緒に発信しながらですね、女子タウン、野球タウンに向かっていきたいと思っております。私も昨年ですね、三次で行われた女子野球大会ですね、これは産業振興課にもこんなことできんかって話ししてるんですけど、パンフレットに女子野球大会があるとそのパンフレット持った人が市内で消費すると、少しね、ちょっと補助が出ますみたいな、ああいうのがもしＪコインあたりできればなというふうなことも思いかけておりまして、ぜひですねそういうストーリーづけとしてこのまちの成り立ちと皆さんの思い等を女子野球タウンにつなげてですね、そういうふうな手当ができればいいなと、このように思っております。それとそのためにはですね、せっかくルビーリーグが川本に来てくれたのに、万一怪我をしてもらったらいけませんので、軟式野球も決まって、国体も決まりますけども、今度教育委員会が、県教委がそのまた見に来てくれるそうですので、教育委員会と一緒になってですね、本番に向けては整備していきますけど、今のラバーフェンスあたりですね、かなり急ぐことであろうと私思ってます。可能であればちょっと教育委員会と一緒になってですね､県の担当が来たときに、このことはちょっと前倒しでもやりたいからそういうな財政措置つけてるみたいな話も引き出されば、そういうことの動きもしながらですね、ぜひ、この動きは、しっかりと皆さんと一緒になってですね、提案して登録を呼び寄せてその先に繋がる動きにしていきたいと思ってます。

議　長

再質問ありますか。よろしいですか。
（「はい」の声あり）

々

以上で、２項目めの「女子野球タウンへの登録について問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、中平議員の一般質問を終了します。

々

ここで暫時休憩します。１４時１０分より再開いたします。

（午後　１時５７分）